

船舶事故調査報告書

平成22年6月17日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵 男（部会長）
 委員 山本 哲 也
 委員 根本 美 奈

事故種類	転覆
発生日時	平成21年11月3日 05時30分ごろ
発生場所	北海道チキウ岬南東方沖 チキウ岬灯台から真方位116°9.7海里（M）付近（概位 北緯42°13.9′ 東経141°11.6′）
事故調査の経過	平成21年11月4日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者からの意見聴取手続きを行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 第六十一 ^{せいりん} 清運丸、9.7トン HK2-22831（漁船登録番号）、個人所有 14.95m(Lr)×3.90m×1.31m、FRP ディーゼル機関、471kW（漁船法馬力数）、平成9年7月14日
乗組員等に関する情報	船長 男性 29歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 平成12年3月10日 免許証交付日 平成21年10月7日 （平成27年3月9日まで有効）
死傷者等	なし
損傷	全損
事故の経過	本船は、船長ほか甲板員1人が乗り組み、北海道室蘭市 ^{おいなおし} 追直漁港南東方沖11M付近で操業を行ったのち、帰航中、北西方からの波浪を船首右舷側から受けるとともに、大量の海水が甲板上に滞留して次第に左傾斜し、甲板上に積み上げていたとろ箱が崩れ、平成21年11月3日05時30分ごろ、ゆっくりと転覆した。 船長は、本船が左舷側に大きく傾いたころ、転覆の危険を感じて約1M前方を航行する僚船に無線で救助を求め、甲板員とともに転覆した本船の船底に上がっていたところ、来援した僚船に救助された。
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 北西、風力 5、視界 良好 海象：波向 北西、波高 約2m
その他の事項	本船は、豊漁で、ふだんより大量のイカを獲り、甲板上にイカを入れたとろ箱約550箱を積み上げていた。 船長及び甲板員は、救命胴衣を着用していなかったが、本船がゆっくりと転覆したため、転覆した本船の上にはい上がることができた。 本船は、来援した巡視艇及び引き船によりえい航が試みられたが、荒天のためえい航索が切れて南東方に漂流し、その後、海上保安庁の航空機などによる捜索でも発見されず、沈没したものと推測された。

分析	乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	あり あり あり 本船は、チキウ岬南東方沖において帰航中、ふだんより大量のイカをとろ箱に入れて甲板上に積み上げていたため、乾舷が減少するとともに重心が上昇して不安定な状態になっていたものと考えられる。 本船は、右舷船首方からの風浪及び左舷側からの海水流入により左傾斜して復原力が減少したため、風浪により左傾斜が増して甲板上に積み上げられたとろ箱が崩れて転覆したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、チキウ岬南東方沖において帰航中、ふだんより大量のイカをとろ箱に入れて甲板上に積み上げていたため、不安定な状態になり、右舷船首方からの風浪及び左舷側からの海水流入により左傾斜が増して復原力が減少するとともに、風浪により左傾斜が増して甲板上に積み上げられたとろ箱が崩れて転覆したことにより発生した可能性があると考えられる。	